

会 議 概 要

1 会議名	令和7年度 第2回 笠間市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和7年10月2日(木)午前10時～
3 開催場所	地域医療センターかさま 行政棟
4 出席者	笠間市子ども・子育て会議委員14名(欠席6名)、事務局
5 会議資料	・会議次第 ・資料1-1 笠間市こども計画 目次・構成案 ・資料1-2 笠間市こども計画(骨子案) ・資料2 笠間市こども計画の基本理念について ・資料3 こども・若者の意見聴取結果について ・公立保育所民営化方針の検討時期の見直しについて
6 会議の概要	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議 事 (1)笠間市こども計画の骨子案について (2)笠間市こども計画の基本理念について (3)こども・若者計画の意見聴取結果について (4)その他 4. 閉 会

<議 事>

(1)笠間市こども計画の骨子案について

【資料1-1、1-2に沿って事務局より説明】

○今回の会議では目次や構成の検討が主となる。具体的な計画な内容については次回会議でご審議いただく。

○笠間市こども計画は全7章の構成とする。

- ・第1章…計画の基本事項を記載
- ・第2章…こども・若者、若者、子育て家庭を取り巻く状況を統計データやアンケート結果から説明
- ・第3章…こども計画の基本理念や基本目標、施策の体系を示す
- ・第4章…具体的な施策の内容について、基本目標ごとに整理
- ・第5章と第6章は、昨年度策定した第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画の内容を掲載

この章については、今年度修正等を行わない。

- ・第7章…計画の推進と進捗管理のため、推進方策と成果指標を示す

○笠間市こども計画はこども・若者計画、子ども・子育て支援事業計画、次世代育成支援行動計画、こどもの貧困解消対策計画を包含し、こども・若者に関する総合的な計画とする。

○計画の対象はこども基本法と同様に心身の発達の過程にあるものとし、施策によっては39歳までの若者を含む。

○計画の期間は第3期子ども・子育て支援事業計画と終期を合わせるため、4年間の計画期間とする。

○次回の子ども・子育て会議で笠間市こども計画の内容についてご審議いただいたのちに、パブリックコメントを実施し市民の方の意見をいただくとともにこども向けの資料も作成し、こども版のパブリックコメントも実施する。

○アンケート調査から見えたこども・子育て世代を取り巻く課題に対応できるような計画の基本方針や施策の内容を示す。

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
・笠間市こども計画の目次・構成案の中にある第5章(第3期子ども・子育て支援事業計画)と第6章(こどもの貧困解消対策計画)の内容もこの笠間市こども計画の中に入れるというような考えでよろしいか。 また、令和12年に1つの計画として1本立ちさせるためにとりあえず内容を含めておくという形でよろしいか。 ・少子化の対策というのはどのような位置づけにするのか。基本計画を見ている中では少子化対策の部分がカバーされていないように思う。 こども計画を立てようとも、やはりこどもがいないことにはそういう政策・施策をやっていけないということにも繋がる。その辺のところの考えをお聞きしたい。	・こども・若者計画、去年策定した第3期子ども・子育て支援事業計画、それと次世代育成支援行動計画、こどもの貧困解消対策計画の4つを包含して今回のこども計画となる。 こども計画の策定は努力義務であるが、こどもの環境整備に努めていくため、こどもに関する一体的な計画を策定する。 ・少子化対策は、笠間市こども計画の中で具体的な項目として出すことはないが、少し触れる部分はある。 笠間市こども計画は、こども・若者のウェルビーイングな社会を目指すことを目的とする。こどもを望んでいる人たちに対して、理想的な数のこどもを持てるような支援は検討する必要があると考える。

(2)笠間市こども計画の基本理念について

【資料2に沿って事務局より説明】

○笠間市こども計画は、こども基本法の基本理念を踏まえて策定する。

○基本理念に盛り込むべきキーワードの提案をお願いしたい。また、事務局で基本理念案を6つ提示しているが、こちらについても意見を伺いたい。

・基本理念案

1. こども・若者が自分らしく成長し、未来を切り開くまち かさま
2. こどもが夢と希望にあふれ、安心して成長できるまち かさま
3. こども・若者が自分の夢を実現できる未来をともに築くまち
4. すべてのこどもが 笑顔あふれるまち かさま
5. すべてのこどもが大切にされ、自由に表現し、夢を追いかけることができるまち かさま

6. すべてのこどもが愛され、はぐくまれ、未来に希望をもてるまちづくり 笠間市

【基本理念案についての検討】

意見・質問等(委員)
【キーワード・基本理念案の提案】 ・生きる力の育成 ・まちを愛する、ここで育ってよかったと思えるといったニュアンスの言葉 ・家庭という言葉を入れたほうがいい ・地域で育む ・こどもが主体というニュアンス ・家庭・地域で愛され成長するというニュアンス ・夢、希望など子供たちが笠間市で挑戦していけるようなイメージのある言葉 ・自分らしく ・前向きなチャレンジ精神というニュアンス 【キーワード・基本理念案についての意見】 ・こども・若者が自ら成長するといった言葉が入っているため、特に追加する文言などはない。 ・例えば特別支援学校こどもたちは、適切な支援や愛され保護されるという側面が抜け落ちてしまいがちになる。その福祉や教育の部分を重視してくれると安心する。 ・なるべく長い文章ではなく、こどもに理解しやすい言葉を使うのがよいのではないかと。 【基本理念案について】 よいと思われる基本理念案に挙手を(複数可) 1 こども・若者が自分らしく成長し、未来を切り拓くまち かさま 9人 2 こどもが夢と希望にあふれ、安心して成長できるまち かさま 3人 3 こども・若者が自分の夢を実現できる未来をともに築くまち かさま 3人 4 すべてのこどもが 笑顔あふれるまち かさま 3人 5 すべてのこどもが大切にされ、自由に表現し、夢をおいかけることができるまち かさま 3人 6 すべてのこどもが愛され、はぐくまれ、未来に希望をもてるまちづくり 笠間市 5人

(3)こども・若者の意見聴取の結果について

【資料3に沿って事務局より説明】

○実施した内容について

1. 小中学生に対する Web アンケート
2. 笠間市に勤務する若者に対するアンケート
3. 放課後児童クラブに通うこどもたちのヒアリング
4. 3つの市内高校に通う高校生の座談会
5. さまざまな課題を抱えるこどもたちに対するアンケート・ヒアリング

の計5種類の方法での意見聴取を実施した。

○小中学生に対する Web アンケート調査について

学年が上がるにつれてネガティブな回答が増える項目がいくつかあったが、全体を通して中学 2 年生が一番ポジティブな回答が多く、小学 6 年生の数字が最も低くなるという傾向が見られた。

○笠間市に勤務する若者に対するアンケート調査について

・年齢で範囲を定めたため、既婚・未婚問わず幅広い回答を得られた。

・結婚のイメージがネガティブであると回答した人…4.2%

子育てのイメージがネガティブであると回答した人…10.9%

という結果になり、子育てのほうにネガティブなイメージを持つ人の割合が大きくなっていた。

・理想と予定の子ども数についての項目では、予定の子ども数は理想のこどもの数から 1 人ほど減った数字が平均値となっていた。この数が異なる理由についてはお金がかかる、金銭的に難しいを挙げた人が多かった。

○放課後児童クラブに通う子どもたちのヒアリングでは、児童クラブごとに回答の傾向が異なっていた。

子どもたちの意見を取り入れイベントなどを開催しているクラブでは、子どもたちの満足度が高く、児童クラブを楽しんでいる意見が多かった。

○高校生の座談会について、参加してくれた高校生は全体的に積極的に結婚したい・子どもが欲しいという考えを持っている人は少ない傾向にあった。また、結婚は機会があればしたい・やりたい仕事よりもつける仕事についている など、消極的な選択や冒険を恐れるような意見が象徴的だった。

○さまざまな課題を抱えたこどものアンケート及びヒアリング調査では、主にともだちハウスに通う子どもたちに意見聴取を行った。

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
・笠間市に勤務する若者へのアンケート調査の目的は。	・若者世代への意見聴取を考えたときに、例えば Web などでも回答してもらおう方法なども考えたが、なかなか回答が集まらないことが予想された。そのため、笠間市に関わりがあり、それなりの回答数が見込める笠間市職員を若者の意見聴取の対象として選定した。
・高校生の座談会について、参加人数や対象人数というものが少なかったのではないかと。何か理由があるのか。(参加人数:計 25 名)	・人数が多くなると、意見を喋れなくなってしまう・意見を言えなくなってしまう子どもたちも出てくるだろうという懸念があった。参加してくれた子どもたちを 5～6 名のグループに分け、そこに子ども政策課の職員を 1 人ファシリテーターとして配置するという体制をとっていた。そのため人数的に、1 人あたり 5～6 名までの対応とするのが適切だろうと判断し、10 名程度意見を聴かせてほしいということで市内高校に

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
・私は以前、高校生のこどもから水戸線の本数が少なくて困っているといった意見を聞いたことがある。私自身、駅の構内にいると怒られるからと他所の家の庭を借りたり、車道の縁石に腰かけて電車を待っている高校生を見かけたことがある。何か工夫をしなければならぬのではないかな。	依頼を出した。また、手法としては、たくさんのこどもたちに意見を聴くときにはヒアリングや座談会の形式をとるのは難しいと考えている。 ・例えば友部駅だと近くに地域交流センターともべ「トモア」があり、高校生が集まったり時間を潰したりすることができる場所がある。だが笠間駅の場合そういった場所がなく、近隣の方に迷惑をかけている状況があるのだろうと考える。 今すぐに何か対策を という回答はできないが、そういった意見を聴きつつこどもの施策として検討していきたい。

●その他

○公立保育所民営化方針の検討時期の見直しについて、資料を基に事務局より説明

○次回の会議開催 令和7年 11 月下旬(予定)